┌┬┬┬

□ホームページＵＲＬが変更になりました

ご挨拶

北海道民のために各分野で活動を続けてきた２２の道立試験研究機関を統合して、新たに地方独立行政法人「北海道立総合研究機構」を創設することとなりました。複雑化・多様化してくる現代社会の様々な要求に的確かつ迅速に対応していくためには、伝統的な仕組みを超えた取り組みが必要であり、組織構成及び運用の総合化・柔軟化と、組織内外の多様な連携が鍵となります。１＋１が２よりも大きく、１＋１＋１が５にも６にもなることが期待されての統合です。

北海道の産業技術と生活文化の次の時代への自立的展開に向けて、創設された北海道立総合研究機構の推進すべき課題は多く、前途は遼遠です。道民の皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　理事長　丹保　憲仁

※※※

＝＝＝

□北方建築総合研究所
所長（建築研究本部長が兼任）

研究参事　福井　範史
居住科学部長　鈴木　大智
　居住科学グループ
　研究主幹　桂　修
　　主査（住生活）　廣田　誠一
　　主査（都市生活）　松村　博文
　　主査（人間科学）　長谷川　雅浩
環境科学部長　鳥居　友一
　建築環境グループ
　研究主幹　鈴木　大隆
　　主査（居住環境）　月館　司
　　主査（都市防災）　高橋　章弘
　構法材料グループ
　研究主幹　吉野　利幸
　　主査（生産システム）　植松　武是
　　主査（技術材料開発）　高倉　政寛

□構造計算適合性判定センター
センター長　富田　克己

構造判定部長　植村　徹
　構造判定グループ
　主任研究員　十河　哲也
　　主査（判定第一）　渡邊　和之
　　主査（判定第二）　本間　裕二

新しいスタッフを紹介します

■４／１付け着任者（企画調整部）

４月から建築研究本部企画調整部企画課に配属された古屋です。積雪寒冷な本道で、道民が安心して暮らせる住まいの確保や、道内産業の活性化において公的研究機関が果たすべき役割は大きいと感じています。今後とも他の研究機関、企業、行政等との連携を深め、北方建築総合研究所がいっそう道民の期待に応えられるよう微力ながら担当させて頂きますので、よろしくお願いします。（企画課長　古屋）

建築研究本部企画調整部の性能評価グループの丹野です。性能評価については、まったく未経験の仕事ですが、これまでの経験を生かして少しでもお役にたてるよう努力してまいります。５月には独立行政法人として、指定性能評価機関

の指定を受ける予定ですので、よろしくお願いします。
（性能評価課性能評価Ｇ主査（評価第一）丹野）

企画グループの一員となった伊藤です。札幌市にあった、寒地住宅都市研究所の時に当時の企画情報課に在籍しておりましたが、現在の調査研究成果の充実ぶりをみると、社会情勢の急速な変化と、私たちに求められている期待の高さをひしひしと感じます。これまでの研究成果による知的資源と世界でも限られた実験研究施設を生かして、皆様のお役に立てるようがんばりますのでよろしくお願いします。
（企画課企画Ｇ主査（指導支援）伊藤）

４月から建築研究本部企画調整部企画課企画グループの一員となった小澤です。積雪寒冷地旭川に来て素晴らしい研究員・研究施設にふれ、必ず生活に役立つ研究が出来る環境だと感じています。　皆様の期待に応えられるよう微力ながら頑張りますので、よろしくお願いいたします。
（企画Ｇ研究職員　小澤）

４月から建築研究本部企画調整部企画課企画グループに配属された江崎です。研究所は初めてで勉強の毎日ですが、微力ながらも皆様のお役に立てるようがんばります。よろしくお願いします。
（企画課企画グループ主任　江崎）

継続課題報告会開催結果

４月２２日、２３日の２日間、今年度継続する研究課題の所内報告会を行いました。
昨年度から引き続き実施する４０課題について、各研究者から研究目的と概要、今後の予定と成果について発表がありました。実用化目前のものから基礎的なものまで、様々な研究課題がありました。
また、近年において博士号を取得した研究者による博士論文報告を行い、取得するまでの経緯や苦労話を交えて発表がありました。

博士号を取得した研究者と論文内容をご紹介します。

□月館　司　Ｈ１４．１２取得
『民生用ロードヒーティングの性能予測手法開発および省エネルギー化に関する研究』
ロードヒーティングの融雪状況やエネルギー消費量を予測するシミュレーション手法を開発し、省エネルギーな舗装構造・制御方法や、太陽熱コレクターとしての利用などについて検討しています。1990年代に実施した特別研究、工業試験場などとの共同研究をベースにまとめたものです。

□堤　拓哉　Ｈ２０．３取得

『北海道の公営住宅を対象とした雪害リスク評価手法の構築に関する研究』
北海道では雪害により多数の被害が発生しています。本研究では、公営住宅を対象に雪対策に関する技術的課題の解決と検討手法の提示を目的に、屋根雪及び吹雪の対策と検討手法を明示し、雪害リスク評価手法を構築しました。

□村田　さやか　Ｈ２０．９取得
『換気システムの長期喚気性能の向上と評価に関する研究』
本論文では、住宅の省エネルギー性および適正な換気量の確保を目的として、自然換気（温度差・ハイブリッド）と熱交換型換気システムを対象に、長期性能の保持手法および長期性能の評価手法を提案しました。

□北谷　幸恵　Ｈ２１．３取得
『採光壁による自然エネルギー利用の研究』
本論文では「採光壁」の基礎構築・提案を行った。「採光壁」とは、高い断熱性能を有しつつ、自然光を採り入れるガラス壁体であり、採光面積を拡大して明るく快適な住空間を形成すると同時に、暖房も含めた省エネルギーを図りました。

□伊庭　千恵美　Ｈ２２．３取得
『粘土瓦の水分移動特性と温暖地における凍結・融解過程に関する基礎的研究』
多孔質材料である粘土瓦を対象に、水分に関わる物性値の測定と、屋根面での夜間放射や降雨などの環境条件を考慮した数値解析により、比較的温暖な地域でも凍結融解が生じる可能性があることを明らかにしました。水分は材料の劣化に大きく関係するため、今後、様々な材料や気象条件下での劣化予測に役立てていきます。

＝＝＝

＝＝＝

により配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら
　http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html
変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム
　http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構　建築研究本部　北方建築総合研究所